

CSR環境報告書

2020



JFE プラリソース 株式会社

報告対象期間：2019年4月～2020年3月 一部、継続・直近の活動を含みます。

表紙イラストは、当社従業員お孫さん 詩織（しおり）ちゃん 10歳 の作品です。

企 業 理 念

「 J F E プ ラ リ ソ ー ス 株 式 会 社 は、
環 境 と 調 和 し た 社 会 の 構 築 に 貢 献 し ま す 。 」

行 動 規 範

「 挑 戦 。 柔 軟 。 誠 実 。 」









新型コロナウイルス感染症の一日も早い終息を

皆様とともに祈りしております。

また、近年の自然災害により被害を受けられた

方々に、謹んでお見舞い申し上げます。

目次

	ご挨拶	・・・ 1
	会社概要	・・・ 2
	品質環境マネジメント	
	品質環境マネジメントシステム	・・・ 4
	環境への取り組み	・・・ 8
	ソーシャルコミュニケーション	
	お客様・お取引様とともに	・・・ 11
	地域社会のみな様とともに	・・・ 12
	従業員とともに ～安心職場づくり～	・・・ 16
	従業員とともに ～ウェルネスライフの実現に向けて～	・・・ 20
	コーポレートガバナンス	・・・ 25
	事業紹介	・・・ 30
	JFEプラリソースのCSR重要課題	・・・ 37
	JIS Q 9091:2016 自己適合宣言	・・・ 43

CSR・環境報告書 2020 電子版は、以下のサイトでご覧いただけます。

- ・ JFEプラリソース株式会社 <http://www.jfe-plr.co.jp/>
- ・ CSR図書館.net <http://csr-toshokan.net/>
- ・ 福山市次世代エネルギーパーク 施設紹介 <http://fukuyama-energypark.com/guide/>

ごあいさつ



資源循環型社会づくりへ貢献

JFE プラリソース株式会社は、2009年7月JFE環境株式会社の『容器包装プラスチックリサイクル事業』を会社分割して承継しました。以来、高炉やコークス炉へのプラスチック利用及び材料リサイクルを含めたプラスチックリサイクル事業を通して、資源循環型社会づくりに努めております。

NFボード®を利用した材料リサイクルにより『廃プラスチックリサイクル推進とCO₂削減』更に使用後再リサイクルすることにより『化石燃料削減』等を実現しています。環境に優しい企業として、市民の皆様へのリサイクルの『見える化』に注力し、各種リサイクルを推進しております。

また、環境保全は本事業の根幹であり、事業活動に伴う環境負荷をできるだけ少なくするために、全員参加型の環境マネジメント活動を継続展開し、トップレベルの環境配慮型企業を目指します。

現場パワーアップを通して働きがいのある会社として、社員一同一致団結して『創意・挑戦・創造』する会社づくりに向け頑張っていきたいと考えております。

弊社に対し、より一層のご支援とご愛顧を賜りますようよろしくお願いいたします。

代表取締役社長

田村 望

会社概要

会社名 JFEプラリソース株式会社
代表者 代表取締役社長 田村 望 (2020年4月現在)
役員 取締役 鈴木 克紀 武井 信広 永井 肇 朝比奈 健
監査役 藤平 達也

設立年月日 2005年11月
2009年3月登記(定款・社名変更)
資本金 90百万円
売上高 46億円(2019年度)
従業員数 約80名
所在地 本社・京浜事業部 〒210-0866 神奈川県川崎市川崎区水江町5番地1
TEL 044-299-5193 FAX 044-299-5328
福山事業部 〒721-0956 広島県福山市箕沖町113番地
TEL 084-981-3160 FAX 084-981-3170
URL <http://www.jfe-plr.co.jp/>

事業内容 一般廃棄物の再資源化およびリサイクル事業
上記事業に関する技術・装置および再生プラスチック商品の販売
沿革 2000年4月 水江原料化工場稼働(処理能力 242t/日)
福山原料化工場稼働(処理能力 254t/日)
2002年9月 NFボード製造工場稼働
2009年7月 JFE環境株式会社から容器包装プラスチックの
リサイクル事業を承継
JFEスチール株式会社が全株式取得



京浜事業部
水江原料化工場



京浜事業部
NFボード製造工場



福山事業部
福山原料化工場

品質環境マネジメント

当社は、企業活動として行う容器包装プラスチックリサイクル事業（イコール）環境活動であるとの認識のもと、環境負荷低減の社会的責務を果たすとともに、ステークホルダーの満足度を重視した品質向上への取り組みを全社一丸となり継続しています。

品質環境マネジメントシステム

品質環境方針を定め、品質（ISO 9001）および環境（ISO 14001）マネジメントを推進しています。

品質環境方針

<基本理念>

JFEプラリソース株式会社は、プラスチック・リサイクル事業を通して、環境負荷の低減を実現し循環型社会の形成に貢献します。

顧客要求事項及び適用される法令・規制要求事項を明確にし、理解し、一貫してそれを満たし、製品及びサービスの適合並びに顧客満足度を向上させる能力に影響を与え得るリスク及び機会を決定し、顧客満足向上の重視を維持した事業活動を行ないます。

品質マネジメントシステムならびに環境マネジメントシステムにのっとり、すべての従業員は、一丸となって品質環境マネジメントに取り組みます。

<基本方針>

- （1）顧客満足度の向上、環境負荷の低減を両軸とした事業活動を行い、事業の発展とともに社会コストの低減をリサイクルにより果たすという目的のため、品質環境マネジメントシステムにのっとり、品質環境マニュアルを定め、遵守し事業を行います。
- （2）品質環境マネジメントシステムは、当社のすべての組織、すべての活動、製品及びサービスに適用します。
- （3）コンビナート、エコタウン、次世代エネルギー・パークの構成メンバーとして環境汚染を予防し、事業活動が与える環境負荷の低減、事業により成される環境負荷の低減を維持・向上・継続します。
- （4）関連する法令、その他の要求事項を遵守します。
- （5）品質マネジメントシステムの継続的改善、環境パフォーマンスを向上させるための環境マネジメントシステムの継続的改善を推進します。

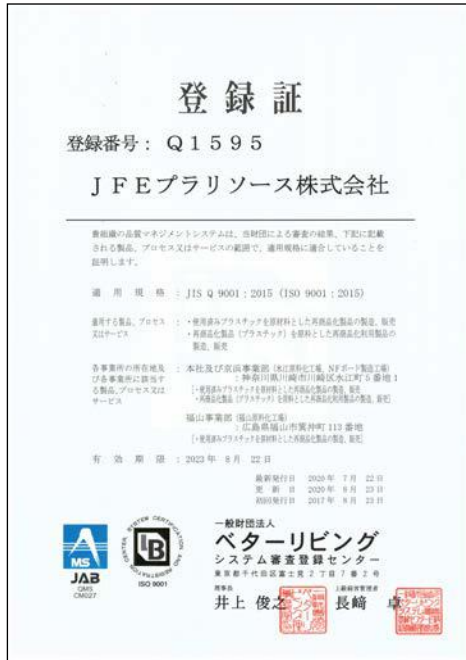
2020年4月1日

代表取締役社長 田村 望

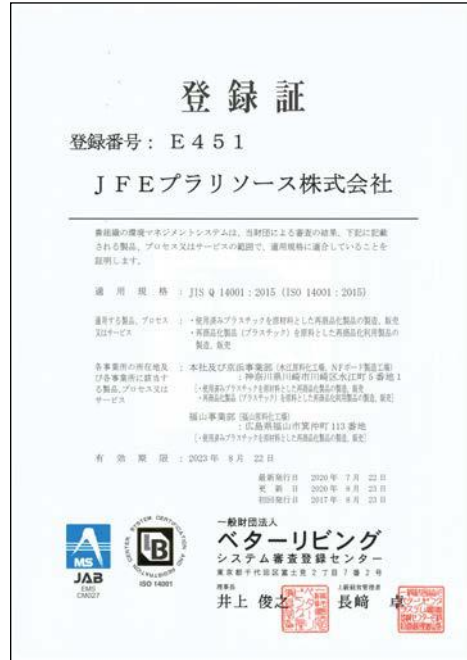
認証取得

当社は、継続的に環境負荷低減と顧客や規制の要求を満たすため、京浜事業部・福山事業部及び本社すべての部署で品質マネジメントシステム（QMS）ISO 9001:2015と環境マネジメントシステム（EMS）ISO 14001:2015の第三者認証を取得しています。

ISO 9001



ISO 14001



材料リサイクルにおいては、JIS Q 9091:2016 の第三者認証を取得しています。

JIS Q 9091:2016とは、事業者から自動車メーカーや家電メーカー等に提供されるプラスチック再生材料の品質を保証するための規格です。当規格を基に、リサイクラー（当社）やコンパウンダーなどの事業者が品質マネジメントを行います。本認証を取引関係者間で利用することによりリサイクルプロセスの信頼性を高め、再生材の活用やリサイクルの促進に寄与することが可能となります。尚、JIS Q 9091はISO 9001:2015の追加指針であり、単体での認証取得はできないこととなっています。

JIS Q 9091:2016



品質・環境マネジメント取り組み状況

年間計画と実績評価

全社共通及び事業部個別の活動は年間スケジュールを基に実施しています。目標達成レベルを設定し、その実績や達成度を月1回事業部長会において評価しています。PDCAサイクルがきちんと機能していることが有効性の確認となります。従業員ひとりひとりが常にPDCAを意識し継続的改善を行い意図した成果を出せるよう階層ごとにレベルを設定しています。

重点実施事項	活動内容
1 品質および環境マネジメントシステム(QMS及びEMS)の導入と全従業員による取り組み	1 品質環境マニュアルの教育 2 各工場のQMS及びEMSの教育 3 内部監査受審と是正 4 自主パトロール(環境パト、品質パトなど)
2 環境汚染の予防と環境負荷低減の維持・向上・継続	1 油・廃液流出トラブル防止:油・廃液流出防止訓練実施 2 火災訓練・消火訓練実施・発災リスクの見直し 3 著しい環境側面の監視と緩和措置
3 関連する法令、その他要求事項の順守	1 環境関連法・条例、その他変更点まとめと関係者への周知 2 環境活動計画表の実施状況確認
4 QMS及びEMSの継続的改善の推進	1 技術標準の適時作成と定期見直し 2 作業標準の適時作成と定期見直し(読み合わせ) 3 作業標準の教育(演練:重要12標準を選択) 4 計測機器点検
5 個別活動目標	1 ISO18263適合:規格コード合格100% 2 クレーム件数、コンプレイン件数 3 ペレット製品歩留及びNFボード合格率 4 電力原単位(kwh/バールt) 5 都市ガス原単位(m3/バールt)

2019年度 福山事業部 品質環境計画書兼実績報告書(例)

○:計画 ●:実績

重点実施事項	活動内容	目標達成レベル	担当	実 施 計 画													
				誰が	誰に	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 品質および環境マネジメントシステム(QMS及びEMS)の導入と全従業員による取り組み	1 品質環境マニュアルの教育 :企画部長→室工場長	全員	企画部 部長	○	●												
	2 各工場のQMSおよびEMSの教育 :室工場長→全員	全員	部長 全員	○	●												
	3 内部監査受審と是正	100%是正	部長 副工場長			●											○
	4 自主パトロール(環境パト、品質パトなど)	100%実施	副工場長 全員										○				
2 環境汚染の予防と環境負荷低減の維持・向上・継続	1 油・廃液流出トラブル防止:訓練実施	1回/年	副工場長 全員			●											
	2 消防訓練実施、発災リスクの見直し	2回/年	副工場長 全員					●						○			
	3 著しい環境側面の監視と緩和措置	1回/年	部長 副工場長						●								○
3 関連する法令、その他要求事項の順守	1 環境関連法・条例、その他の変更点まとめと関係者への周知	1回/年	企画部 部長	○	●												
	2 環境活動計画表の実施状況確認	毎月	部長 副工場長	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○
4 QMS及びEMSの継続的改善の推進	1 技術標準の適時作成と定期見直し	4回/年	部長 副工場長				●							○			
	2 作業標準の適時作成と定期見直し(読み合わせ)	4回/年	副工場長 課長(NWS)			●											○
	3 作業標準の教育(演練:重要12標準を選択)	1回/月	課長(NWS) 全員			●			●								
	4 計測機器校正	1回/年	部長 副工場長														○
5 個別活動目標	1 ISO18263適合:規格コード合格	100%	部長 副工場長	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%						
	2 クレーム件数	ゼロ	部長 副工場長	0	0	0	0	0	0	0	0						
	3 コンプレイン件数	5件/年以下	部長 副工場長	0	0	0	1	0	0	0	0						
	製品歩留及び電力原単位など(以下、省略)																

消防訓練実施

火災が発生すると近隣のみな様と環境に多大な影響を及ぼします。全社で年間約7万トンの指定可燃物であるプラスチックを扱う当社では、火災を著しい環境側面のひとつにしています。火災は未然防止が大原則です。原料及び製品保管場所での火災や油脂倉庫での火災等あらゆる可能性を洗い出し細かく監視対象としています。加えて、万一の事態に対して被害を最小化するため初期消火活動を誰もが行えるよう様々な訓練を実施しています。更に、大きな火災も想定し公設消防と連携し合同訓練も行っております。当社は、火災を含む環境事故ゼロ達成を目指し、環境安全性の確保に努めています。



消火設備使用訓練



製鉄所消防隊との合同訓練



公設消防隊との合同訓練



消防競技会への参加



環境への取り組み

環境に係わるデータ公開

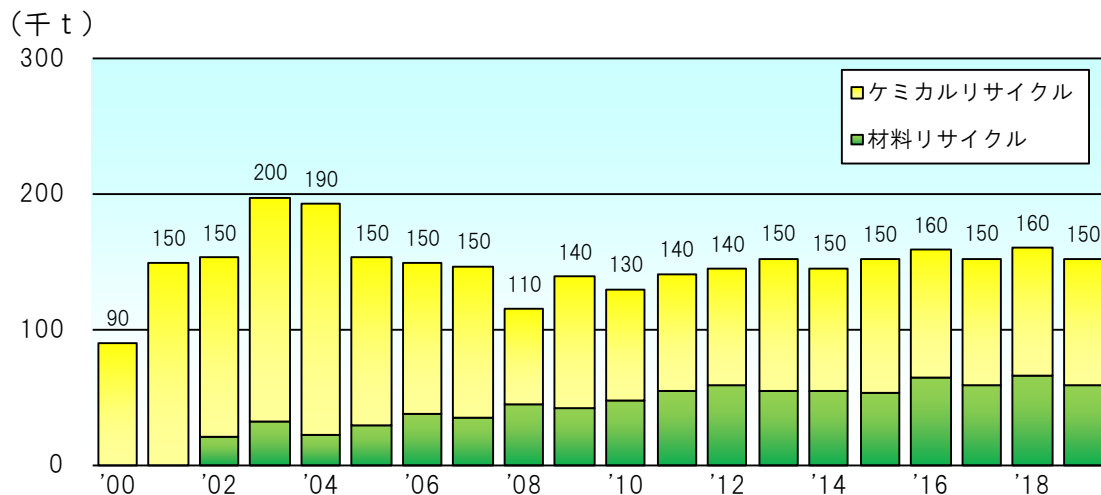
当社HPでは、施設の維持管理記録を公開しています。工場ごとに管理値を設定し取り組み、各月の実績を毎月更新しています。

目的	区分	項目	単位	管理値	至近の測定実績			管理値	至近の測定実績			測定頻度	備考	
					4月	5月	6月		7月	8月	9月			
水江	公害防止	①大気(1系)	ばいじん	g/m ³ N	0.095以下	-	-	0.003	0.028以下	-	-	-	3ヶ月毎 6ヶ月毎 1年毎 項目による	ライン毎
			硫黄酸化物	m ³ N/h	1.37以下	-	-	0.10	1.75以下	-	-	-		
			窒素酸化物	ppm	218以下	-	-	15	218以下	-	-	-		
		①大気(2系)	ばいじん	g/m ³ N	0.095以下	-	-	0.010	0.028以下	0.0020	-	-		
			硫黄酸化物	m ³ N/h	1.37以下	-	-	0.10	1.75以下	0.018	-	-		
			窒素酸化物	ppm	218以下	-	-	5	218以下	15	-	-		
		②側溝滞留水	pH	-	5.8~8.6	-	-	-	5.5~9.0	7.5	-	-		
			COD	mg/L	123以下	-	-	-	123以下	8.9	-	-		
		③臭気	敷地境界	-	23以下	-	-	16	23以下	-	-	-		
			ペール置場	-	71以下	-	-	51	71以下	-	-	-		
	④振動	敷地境界	dB	57以下	-	-	43	57以下	41	-	-			
		敷地境界	dB	71以下	-	-	62.6	57以下	-	-	58			
	廃棄物管理	⑥プラ廃棄物発生量	kg/t	240以下	198	293	235	260以下	296	289	250	工場全体	毎月	
			%	79以上	80	76	77	74以上	86	85	90			
		⑦プラ廃棄物熱利用効率	kg/t	36以下	5	2	3	56以下	26	32	27			
			kg-CO ₂ /t	260以下	235	226	224	316以下	306	334	330			
環境負荷管理	⑨CO ₂ 排出量	kg/t	2.6以下	1.9	0.9	0.9	2.7以下	2.6	2.7	2.8				
		kg/t	0.07以下	0.24	0.09	0.00	0.11以下	0.08	0.10	0.00				
化学物質管理	⑩消泡剤	kWh/t	390以下	379	370	369	390以下	394	432	425				
		m ³ N/t	21以下	24	19	18	11以下	6.7	5.8	6.1				
役管理	⑬Cガス	kg/t	25以下	0.8	0.9	0.7	0.13以下	-	-	-				
		m ³ /t	0.12以下	0.11	0.11	0.10	0.24以下	0.23	0.29	0.28				
	⑮水資源	L/t	3.6以下	3.8	3.5	3.7	4.4以下	3.5	4.5	4.7				
		mL/t	25以下	10.6	16.3	9.7	19以下	3.0	13.0	0.0				

容器包装プラスチックリサイクルによる環境負荷削減

当社の行う容器包装プラスチックリサイクル事業は、CO₂排出削減に大きく寄与しています。以下に、リサイクル手法毎の評価方法による削減効果を算出しています。2019年度のCO₂排出削減量は150千tとなり、これは一般家庭の年間排出量のおよそ4万世帯分に相当します。

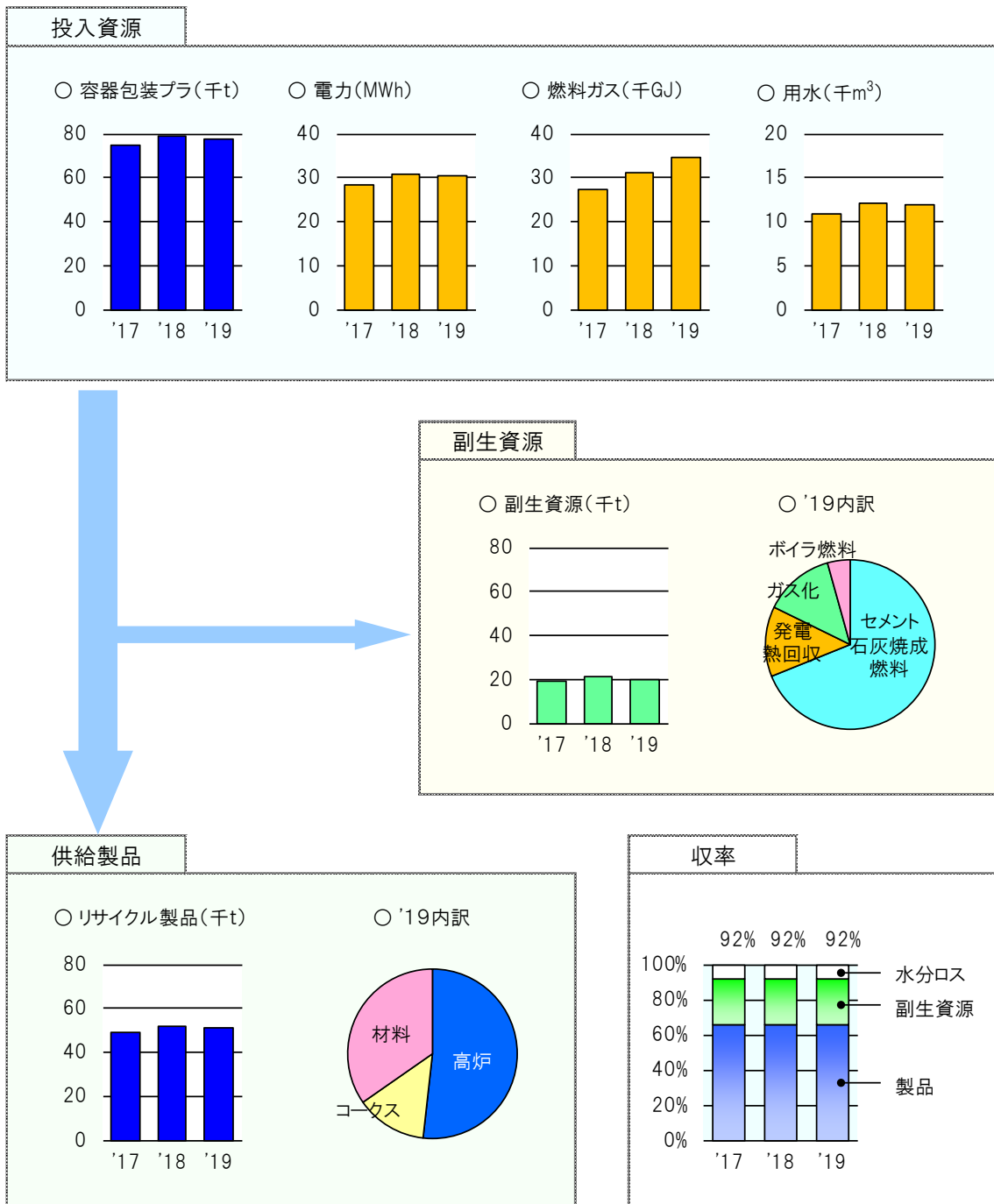
➤ 容器包装プラスチックリサイクルによるCO₂排出削減量



容器包装プラスチックリサイクルのマテリアルフロー

一般家庭から排出された容器包装プラスチックを原料として、「高炉還元剤」、「コークス炉化学原料」、「材料リサイクル」のリサイクル製品を製造しています。

容器包装プラスチックは、廃棄すれば環境に負の影響を及ぼします。一方、回収し適切な処理を行えばすべて再利用可能なものです。当社はすべて再利用を行っており、リサイクル製品及び副生資源を合わせた総合収率は 90%を超え、水分ロス以外の全量が有効利用されています。



グリーンコミュニケーション活動の継続

京浜地区・福山地区におけるグリーン推進隊を中心としたグリーンコミュニケーション活動は、私たちの会社生活の一部となっています。季節ごとの色とりどりの花々は、人と人を柔らかな気持ちで繋いでくれます。活動は、当社HPで公開しすべてのステークホルダーのみな様に“季節だより”をお届けしています。



ソーシャルコミュニケーション

お客様・お取引様とともに

Webサイトのリニューアル

当社は2020年7月、Webサイトをリニューアルしました。

「見やすさ」と「わかりやすさ」の改良に加え、購買基本方針やハラスメント防止宣言など新たな項目を追加しました。ステークホルダーのみな様により一層、当社の取り組みを知って頂くため充実を図っています。

▶トップページ

当社が独自開発を行ったNFボード®をトップページに置き、トピックスなど随時更新をしております。更に、当社と関わりの深い自治体や団体のバナーも積極的に掲載をしています。みな様を繋ぐ架け橋となるサイトづくりを目指しています。

▶会社概要の充実

当社の購買基本方針及びハラスメント防止宣言を社内外に表明し、透明性のある開かれた企業づくりをこれからも継続し推し進めます。

▶NFボード®商品検索機能追加

あらゆるシーンでご活用頂けるNFボード®を業種や目的から簡単に検索できるページをご用意致しました。これからもさまざまなアイデアをご提案すべく用途開発に努めて参ります。



地域社会のみな様とともに

福山城築城 400 年記念事業 記念基金への参加

2022 年、福山城は築城 400 年という大きな節目を迎えます。
福山市は、築城 400 年を記念し、西国鎮衛として城郭史上価値ある福山城の魅力を活かすことにより、その価値を後世に伝えるため「令和の大普請」と銘打った記念事業に取り組んでいます。

【基本方針】

福山城築城 400 年を契機として、先人の歩みや大切にしてきた思いを、あらためて振り返り、市民の心を一つにする機会とします。さらに、福山城をはじめ、市全体の歴史・文化資源等の価値を再認識し、磨き上げ、その魅力を市内外に発信することで、「城があるまち福山」を市民全体の誇りとしていきます。

福山城の大きな魅力のひとつに「日本一天守閣が駅から近い」ことが挙げられます。

福山駅新幹線ホームからすぐ目の前に石垣や天守を望むことができます。山陽本線の建設が計画された際、線路を最短ルートで敷くために内堀が妥当とされたとのこと。その他たくさんの福山城の魅力について以下の URL でご紹介されています。

<https://fukuyama400.jp>



築城 400 年は、福山の地で企業活動を行う当社にとっても大変喜ばしいことであり、その趣旨に賛同し応援しています。

当社は、記念事業期間の 2019~2022 年度まで継続して基金に参加することで福山城ひいては福山市の発展の一助となりますことを祈念しています。



読売テレビ 情報番組からの取材 (かんさい情報ネット t e n.)

2019年12月、当社は在阪テレビ局である読売テレビの取材を受けました。当社が高炉還元剤手法で落札した大阪市の容器包装プラスチックの入荷から製品製造を経て製鉄所高炉へ搬出するまでの工程についてご説明しました。大阪市民のみな様が排出された容器包装プラスチックごみがリサイクルされる過程を映像でご視聴頂き、日々みな様が行うリサイクル行動の大切さや有益性を多くの方に肌感覚でご説明できる機会を得ることができました。

当社の企業活動であるリサイクル事業の源は、市民のみな様が行う分別排出という日常の社会貢献活動であると考えております。



かわさきFM 自然環境教育番組への出演 (舞はるりのTO THE NATURE)

2020年3月、当社はかわさきFMのラジオ番組に出演しました。

自然派ラジオパーソナリティーであり、環境教育メディア環境教育インストラクターとして活躍中の舞はるりさんがプロデュースする自然や環境をテーマとした番組「TO THE NATURE」(金曜日 10:00~)で



幅広い年齢層の方々に当社のリサイクル事業や環境への取り組みとともに、ご家庭で行う分別排出のその先を詳しくご紹介致しました。また、昨今問題となっている不適切な排出によるリチウムイオン電池の発火については、正しい分別方法を市民のみな様ひとりひとりに守って頂くことが、火災予防への一番の近道であることをみな様に発信することができました。

環境コミュニケーション大賞への応募

当社は会社発足以来、CSR環境報告書を毎年発行しています。環境への取り組みを中心とした当社の一年の活動をわかりやすくご紹介しています。環境省の主催する環境コミュニケーション大賞に継続応募をし、第17回環境報告書部門では「奨励賞」、第19回環境活動レポート部門では「優良賞」を受賞しています。応募後、フィードバックされる講評を翌年度の報告書に生かしています。

昨年は、環境大臣より感謝状を頂きました。JFEプラリソースは、今後も持続可能な社会実現に向けた取り組みを継続することを宣言致します。



自治体行事への参画

▶福山市

ばらオーナー制度への参加

福山市内を彩る 100 万本のばら。緑町公園内ローズヒルに当社がオーナーとなっているばらが 100 本咲いています。2020 年 11 月からの第 5 期にも参加します。



エコでえ〜ことHAPPY！キャンペーンⅢ

福山市による環境にやさしいライフスタイルの実践推進活動。

2019 年は持続可能な社会の実現を目的として実施。

当社は本キャンペーンに賛同し、継続協賛しています。



▶川崎市

第 1 2 回 川崎国際環境技術展 (2019 年 11 月)

テーマは「SDGs 未来都市かわさき始動！」

2 日間の来場者数は、約 1 万 7 千人。

当社は、JFE グループとして出展しました。



工場見学会開催

当社は、ステークホルダーのみな様に向け見学会を通年開催しています。老若男女問わず、近隣から海外まで多くの方々にご来場頂いております。2019年度終盤以降は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け残念ながら見学会が延期や中止となっております。再び、みな様にご来場頂ける日を待ち望んでおります。

2019年度見学実績

	件数	人数
一般	2	57
企業・団体	11	106
中央官庁	1	3
市町村	7	35
海外	4	44
計	25	245



グリーン推進隊活動報告

当社は、京浜事業部・福山事業部のそれぞれにおいてグリーン推進隊活動を行なっています。活動内容は、HP上の“グリーン推進隊からのお知らせ”コーナーや福山市次世代エネルギーパークHPにて随時報告しています。社内でのグリーンコミュニケーションを発信する窓口は、地域社会のみな様と繋がることのできる重要ツールであり、私たちの連帯感の醸成にも大きく寄与しています。

The screenshot shows the website interface for the Green Promotion Team. At the top, there's a navigation bar with 'JFE プラリソース 株式会社' and 'English'. Below it, a banner reads 'グリーン推進隊からのお知らせ'. A sidebar on the left lists years from 2020 down to 2017. The main content area displays a list of news items for 2020, including dates and department names like '福山事業部' and '京浜事業部'. Two callout boxes are overlaid on the page, each featuring a watermelon image and a text box. The first callout, dated 2019.8.1, says '施設からのお知らせ JFEプラリソース(株) すいか日記。完。'. The second callout, dated 2019.7.23, says '施設からのお知らせ JFEプラリソース(株) 先を越されてしまいました(悲)。'.

従業員とともに ～安心職場づくり～

安全確保から更に安心できるレベルへの挑戦

安全衛生活動におけるP D C AではC（チェック）が「肝」となります。有効性に加え、維持が可能であると確認できることがA（アクション）の高度化に繋がります。維持活動は、向上活動です。「安全確保（許容できるリスクが残る状態）」水準のレベルアップにより「安心（リスクゼロ）」に到達することを目指しています。当社は、「安全職場」から「安全安心職場」に向けて着実に歩みを進めて参ります。

2020年 安全衛生防災活動方針

1. 基本理念

『安全はすべてに優先する』

2. 活動目標

『各職場 災害“0”の達成』

3. スローガン

『危険への感性を高めてKY実施』

『自ら考える先手対策で職場の安全・安心』

4. 活動方針

- (1) 先手対策実施とワースト5活動を定着させ
『安全で安心な職場を作る』
- (2) 明るい挨拶・指差呼称・5S徹底を通して
『明るくメリハリのあるきれいな職場作り』
- (3) 防災教育&訓練実施による防災基盤の強化
『全員が消火設備を使用した訓練実施』
- (4) 職場と心と体の健康づくりを推進して
『働きがいと思いやりのある職場作り』

J F E プラリソース株式会社





2019年度の重点安全対策

当社は、会社の財産である従業員の健康を守るため毎年重点安全対策を立案し、実行しています。安全・快適な作業環境を整えることは、従業員の心身の安定に大きく寄与し、すべての働く者の安心職場の構築となります。

2019年度は、重点安全対策を以下の2点とし改善を図りました。

夏季の暑さ対策

近年、猛暑日と呼ばれる日が増加傾向にあります。夏の暑さは身体への負担が大きく、安全行動の阻害要因のひとつです。本年は、設備強化により抜本的な改善を行いました。中でも工場建屋屋根遮熱塗装は、屋根裏温度を約12°下げる効果があり作業環境改善に大きく寄与しました。オペレーターは空調服を着用し、二重三重の暑さ対策を実施しました。

工場建屋屋根 遮熱塗装	工場建屋壁面 窓新設
	
ジャンボファン増設	局所クーラー設置
	

人と重機の接触防止対策

設備や保管物などが置かれている工場内では、限られたスペースで人も重機も移動しなければなりません。安全意識やルールの強化だけでは防ぎきれない潜在リスクが多く存在しています。物理的に接触機会を減らす動線ルートの構築や、光や音など人間の五感に訴求する注意喚起設備の導入について、先入観を排除し行いました。長年の経験に頼った方法やチームワークで事故を防いできた習慣からのリスク洗い出しを行うことで、ハードとソフトの両面の安全強化を図りました。

場内横断歩道設置	重機への警告灯取付
	

安全は自分たちで築くもの

「ご安全に!」。私たちは一日に何度もこの言葉を使っています。時間や職場の上下関係、社内外を問わず簡潔にコミュニケーションが取れるだけでなく、声掛けによる互いの安全状態確認の習慣としての役割も果たしています。安全活動は、車の両輪のようにトップダウンとボトムアップのどちらかひとつが欠けてもうまく機能しません。会社と従業員が目的達成のため、各々の立場で十分に使命を果たしています。災害がゼロを「当たり前」にするために日々ひとりひとりが安全行動を積み上げています。



私の安全宣言



安全のぼり旗

安全と防災

製造業である私たちにとって、安全を守りあらゆる災害を防ぐことはすべてに優先されるものです。注意深い観察と正しい調査・測定によりリスクを小さいうちに発見すること、なくすこと、是正することが事故や災害の未然防止に最も効果的であると考えます。リスクが顕在化する前に対応・対策を取ることは、私たちの推進する安全衛生防災活動の目的であり必達しなければならない課題です。全員が人まかせにせず、ひとりひとりがリーダーとして課題達成を目指し取り組んでいます。

パトロールのもうひとつの意義

当社では、毎日実施する職場内パトロールの他に目的に応じパトロールを行う時期やメンバーを年間で計画し実行しています。パトロールは「鳥・虫・魚」の目（鳥のような視野の広さ、虫のようなミクロの視点、魚が潮目を読み取るような先見性や想像力）で行うことが求められます。管理監督者によるパトロールに加え、職場ではパトロールする側・される側のロールプレイで安全感度の底上げを図っています。



防災パトロール



異業種パトロール



衛生パトロール



環境危険物パトロール



職場内パトロール



安全パトロール



品質パトロール



環境パトロール



防火パトロール

従業員とともに ～ウェルネスライフの実現に向けて～

ハラスメントのない安心できる毎日のために

当社は、全てのステークホルダーに向けハラスメント防止について宣言しています。

ハラスメント防止宣言

職場におけるハラスメントは、従業員の個人としての尊厳を不当に傷つける社会的に許されない行為であるとともに、従業員の能力の有効な発揮を妨げ、また、会社にとっても職場秩序や業務の遂行を阻害し、社会的評価に影響を与える問題です。当社はハラスメントのない健全な職場環境の確保を企業の責任と考え、基本方針を定めます。

1. 当社は下記のハラスメント行為を容認しないことを宣言します。

(1) パワーハラスメントに類する行為

職場の上下関係、雇用形態の違い等による職務上の地位や権限など権力差を背景にして、相手の人格や尊厳を侵害する行為を行うことにより、相手や周囲の人に身体的・精神的な苦痛を与え就業環境を悪化させる行為。

(2) セクシャルハラスメントに類する行為

事業主は、職場において行われる性的な言動に対するその雇用する労働者の対応により当該労働者がその労働条件につき不利益を受け、又は当該性的な言動により当該労働者の就業環境が害される行為。

(3) 妊娠・出産・育児・介護に関するハラスメント行為

職場において行われる上司・同僚からの言動（妊娠・出産したこと、育児休暇等の利用に関する言動）により、妊娠・出産した「女性労働者」や育児休業等を申出・取得した「男女労働者」等の就業が害される行為。

(4) その他のハラスメント

2. この方針の対象は、社員、嘱託社員、契約社員、パートタイム社員、派遣社員等当社において働いているすべての労働者を含みます。

3. パワーハラスメントに関する相談窓口について

当社には、内部通報制度があり、相談者の解決に向けたサポートを行っています。なお、相談者はもちろん、事実関係の確認に協力した者に不利益な取り扱いは行いません。

4. パワーハラスメント行為者への対応について

パワーハラスメントの行為者に対しては、事実関係を調査の上、就業規則に基づき、厳重な処分を行います。その他、行為者の異動等、被害者の労働条件および就業環境を改善するため必要な措置を講じます。

JFE プラリソース株式会社
代表取締役社長 田村 望

産業医との連携

当社は従業員のフィジカル・メンタル両面の健康を守るため、産業医と緊密に連携を図っています。従業員の心身の健康を阻害する事象が起こった時のみならず、起こさないための取り組みに注力しています。季節の影響による疾病、生活習慣病、認知度の低い疾病への注意喚起など私たちの毎日に潜むリスクとその未然防止について毎月産業医による講話を実施しています。安全・安心な労働環境づくりは企業の使命であるとともに、ともに働く仲間が互いに「思いやり」を持って経験を元に作り上げてきた文化です。私たちは、会社・従業員・産業医の三位一体で働くすべての人の健康を守る活動を推し進めています。

2019年度 産業医講話

4月	「肥満症」 ①なぜ太るのか？ ②肥満とは ③年代別肥満率 ④BMI指数と検診で異常値が出た検査数合計との関係 ⑤BMI指数とその後の10年間における死亡率との関係 ⑥減量を要する健康障害 ⑦減量するには ⑧運動療法
5月	「熱中症」 ①熱中症とは ②熱中症発症件数の推移 ③暑さへの備えは万全ですか？ ④作業場は涼しく ⑤作業着も涼しく ⑥暑さの評価 ⑦WBGT計のJIS規格化 ⑧暑さに応じた作業時間管理 ⑨暑熱環境での連続作業と体温 ⑩休憩所と飲料水摂取のポイント ⑪食事は水分・塩分の補給源 ⑫暑さへの慣れ（暑熱順化）
6月	「歯の健康」 ①健康経営と歯科 ②歯と口を健康に保つための3つのポイント ③寝る前の徹底した口腔ケア ④歯磨きの補助内容 ⑤歯磨き用品の適正使用 ⑥歯科医による定期健診 ⑦歯科医院でできる予防医療 ⑧2019年構内歯科検診の案内

7月	<p>「作業環境測定の活用法」</p> <p>①作業環境中の有害要因の例 ②作業環境測定の流れ ③作業環境測定を行なうべき作業場 ④作業環境測定のデザイン ⑤作業環境測定結果の評価と措置 ⑥第2・3管理区分の作業場の作業環境の改善の実施 ⑦まとめ</p>
8月	<p>「熱中症を防ごう！～凡事徹底～」</p> <p>①暑い所で、体調不良は熱中症を疑う ②暑さの評価はWBGT値（暑さ指数）が主流 ③暑さに応じた作業時間管理 ④暑さへの慣れ（暑熱順化） ⑤暑熱環境での連続作業と体温 ⑥体を冷やすには手のひら冷却が効果的 ⑦飲料水摂取のポイント ⑧効率的な水分摂取のイメージ ⑨作業開始時に既に水分不足の日も</p>
9月	<p>「心肺蘇生」</p> <p>①心肺停止の発生場所 ②救命の連鎖 ③心肺蘇生の流れ ④周囲の状況の安全確認 ⑤反応を見る ⑥人を呼ぶ・119番通報とAEDの手配 ⑦119番通報のポイント ⑧呼吸の確認 ⑨胸骨圧迫 ⑩AEDの装着・使用</p>
10月	<p>「データから見た指差呼称の効果」</p> <p>①指差呼称でエラーが減少する ②指差呼称をする理由 ③「指差し」とすると、視線が集まる ④文字を読むと確実な識別/同定ができる ⑤指差呼称をすると脳血流が増加 ⑥指差呼称は記憶を促進する ⑦指差呼称 効果のまとめ ⑧指差呼称と5Sでヒューマンエラーの削減を</p>
11月	<p>「飲酒」</p> <p>①アルコール摂取量と死亡率の関係 ②アルコールと血圧の関係 ③アルコールを飲むとよく眠れる？ ④アルコールチェック ⑤アルコール依存症 ⑥アルコールのメリット ⑦適正飲酒の10か条</p>
12月	<p>「2019年産業医巡視まとめ」</p> <p>①「照度」適切な照度で手元足元の安全の確保 ②「熱中症対策」熱中症ゼロを目標に作業環境や作業にあった対策の継続 ③「CO対策」作業環境管理と教育や訓練の継続 ④「化学物質関連」適切な管理と暴露防止対策の徹底 ⑤「保護具」適切な着用と管理の実施 ⑥「事務所・詰所」5S実施の継続と安全で快適な職場環境の維持 ⑦「衛生管理」清潔な状態を維持しインフルエンザ等の感染症を予防</p>
1月	<p>「JFEグループの健康経営と2020年の健康活動の紹介」</p> <p>①健康経営とは ②JFEグループ健康宣言 ③2020年JFEスチール安全健康活動指針 ④全社ワーキンググループ検討スコープ ⑤「からだの健康」管理上の課題と重点取組事項 ⑥2020年京浜地区健康重点活動 ⑦こころの健康（連携強化） ⑧からだの健康（禁煙推進・受動喫煙防止） ⑨職場の健康（熱中症）</p>
2月	<p>「新型コロナウイルス（COVID-19）」</p> <p>①はじめに ②世界の新型コロナの感染者数 ③日本の新型コロナの感染者数 ④これからの感染対策の方向性 ⑤感染症を考える時の2つの要素 ⑥感染力 ⑦感染ルート ⑧感染ルートの補足 ⑨予防方法 ⑩拡大防止対策 ⑪症状の経過 ⑫年代別・持病別の死亡率 ⑬診断 ⑭PCR検査とは ⑮治療方法 ⑯かぜ症状がある時の対応 ⑰今後の対応 ⑱まとめ</p>
3月	<p>「2019年ストレスチェック&健康診断結果報告」</p> <p>①2019年ストレスチェック ②職場 集団分析（全国との比較） ③ストレス要因に関する分析（回答の平均値） ④2019年定期&雇入健康診断 ⑤肥満（BMI25以上の割合） ⑥肥満（BMI25以上の人数） ⑦血圧（140/90以上の人数） ⑧HbA1c（6.5%以上の人数） ⑨LDL（悪玉）コレステロール（140以上の人数） ⑩まとめ</p>

健康経営への取り組み

昨今耳にする言葉に「健康経営」があります。人口減少に伴う労働者不足、高齢者比率の増加及び働き方改革による労働時間短縮等の時代の移り変わりとともに発現してきた課題に対する企業の取り組みのひとつです。経済活動を継続するためには、従業員の健康保持・増進への取り組みが従業員の活力向上や生産性の向上等をもたらすという考えのもと、従業員の健康管理を経営的視点から考え、戦略的に実践することで将来的に収益性等を高める目的のための投資 = 「健康経営」です。当社は2019年度より準備を開始し取り組んでいます。

2021年度「健康経営優良法人」認定に向けて

本認定制度は、健康経営に取り組む優良な法人を「見える化」することで、従業員や求職者、関係企業や金融機関などから社会的に評価を受けることができる環境を整備することを目標とし経済産業省と日本健康会議が運営しています。当社は健康経営の取り組みをより実効あるものとするため、2021年度「健康経営優良法人」認定を目指し活動しています。宣言証は社内外を問わず多くの方が見られる場所に掲示しています。



認定基準	
必須項目	健康宣言の社内外への発信、経営者の健診受診 健康づくり担当者の設置 健康増進・過重労働防止の目標設定 受動喫煙対策に関する取り組み 保険者へのデータ提供（保険者との連携）
課題把握	① 定期健診受診率100% ② 再検査・精密検査の受診勧奨の取り組み ③ 50人未満の事業場におけるストレスチェックの実施
基礎づくり	① 健康に関する教育機会の設定 ② 事業者主体のコミュニケーション促進に向けた取り組み
具体的対策	① 特定保健指導実施機会の提供に関する取り組み ② 運動機会の増進に向けた取り組み ③ 感染症予防に向けた取り組み ④ 長時間労働者への対応に関する取り組み ⑤ メンタルヘルス不調者への対応に関する取り組み

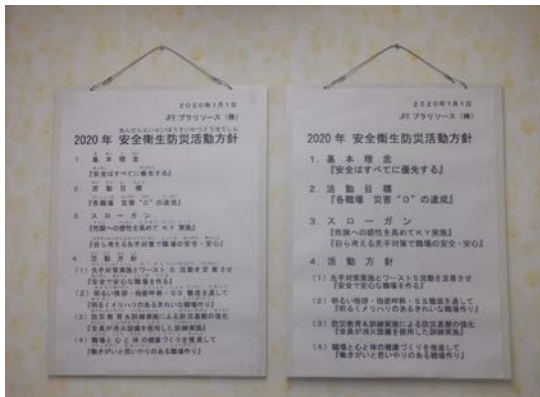
ダイバーシティの推進

ダイバーシティ経営とは、性別・人種・国籍・宗教・年齢などの多様な人材を積極的に活用し企業の競争力に繋げることです。当社では現在、日本をはじめとしブラジル・中国・チリなどの出身を異とする従業員が各職場にて活躍しています。同様に、性別や年齢で区別することなく様々な部署で登用しています。性差や母国語の違いなどによる従業員の不利益を禁じ、従業員の尊重されるべき権利を守るだけでなく安心して快適に働くことのできる職場を目指し会社と従業員の間で要望や課題について意見交換を行っています。職場内では、グループや個人間でそれぞれが工夫を重ねコミュニケーションを図っています。当社は、制度などの枠組づくりに加えひとりひとりが他者を受け入れ理解し認め合うことのできる環境醸成を継続的に推進しています。

外国人従業員向け標記



ルビ付き掲示物

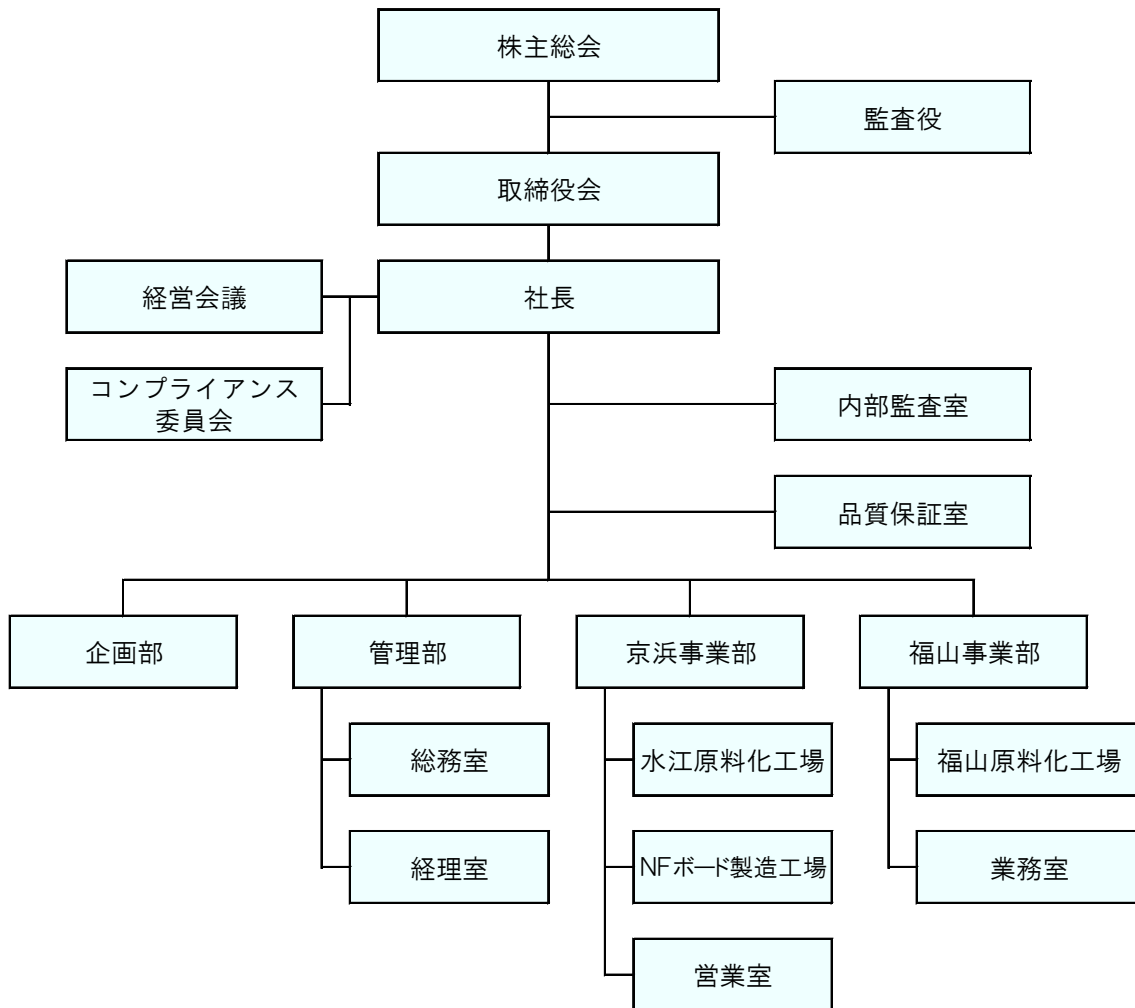


コーポレートガバナンス

JFEプラリソース株式会社は、ステークホルダーのみな様のニーズと期待に応えることを企業経営の最重要課題とし、体制を整備しています。

経営体制

スリムな経営体制を構築し、効率的に事業推進することで、競争力の強化と収益力の拡大を図っています。



内部統制構築の基本方針

当社の企業行動指針や取締役会規則などをはじめとする、業務遂行に関わるすべての規程、規則などは包括的・一体的として当社の内部統制体制を構成するものです。企業活動に関わる法令変更または社会環境の変化に従い、さらには業務執行の効率性の観点においてその目的・趣旨が実現されるよう努めるものとしています。

CSRマネジメント

JFEプラリソースは、長期的な視点に立ち持続可能な社会を構成していく一員として価値ある事業活動を継続することで社会的責任（CSR）を実践します。

JFEプラリソース株式会社 行動指針

JFEプラリソース株式会社の役員および社員は、「企業理念」の実現に向けたあらゆる企業活動の実践において、「行動規範」の精神に則るとともに以下の「行動指針」を遵守する。

経営トップは自ら率先垂範の上、社内への周知徹底と実効ある体制整備を行い、企業倫理の徹底を図る。

本行動指針に反する事態には、経営トップ自らが解決にあたり再発防止に努める。また、社内外への迅速かつ的確な情報公開を行い、権限と責任を明確にした上で厳正な処分を行う。

1. 良質な商品・サービスの提供

優れた技術に基づいた安全で高品質の商品とサービスの提供に努めるとともに、個人情報・顧客情報の保護に十分配慮し、お客様から高い評価と信頼を得る。

2. 社会に開かれた企業

株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを図り、企業情報について、社会への積極的な情報公開に努める。

3. 社会との連携と協調

良き企業市民として、社会との連携と協調を図り、積極的な社会貢献に努める。

4. グローバル化

グローバルな視点を持ち、各種の国際規範はもとよりそれぞれの文化や習慣を尊重し、世界の様々な人々との相互理解に努める。

5. 地球環境との共存

地球環境との共存を図るとともに、快適な暮らしやすい社会の構築に向けて主体的に行動する。

6. 政治や行政との関係

政治や行政との健全かつ正常な関係の維持・構築に努める。

7. 反社会的勢力への対応

市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは、一切の関係を遮断し、違法・不当な要求には応じない。

8. 人権の尊重

社会の人々、従業員を個として尊重し、企業活動において一切の差別を行わない。

9. 働きがいのある職場環境

従業員にとって魅力に富み、安全で働きがいのある職場を提供する。

10. 法令の遵守

法令を遵守し、公正で自由な競争に心がけ、適法な事業活動を行うとともに、健全な商慣習に則り、誠実に行動する。

購買基本方針

JFEプラリソースは、購買活動の推進にあたっては、すべてのお取引先と良きビジネスパートナーとして、相互理解と信頼関係に基づき、以下の購買基本方針のもと、公正・誠実に活動してまいります。

1.コンプライアンスの徹底

当社はコンプライアンスを購買活動の基本に据え、関連する法令、社会規範を遵守し、誠実に行動するとともに、取引きを通じて得た情報の管理を徹底いたします。また、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは、一切の関係を遮断し、違法・不当な要求には応じません。

2.公平な競争機会の提供

当社は広く世界に目を向け、競争力のある国内外のすべてのお取引先に公平に機会を提供いたします。

3.パートナーシップ

当社はお取引先と相互理解と信頼関係の維持向上に努めるとともに、ビジネスパートナーとして相互の発展を目指してまいります。

4.お取引先の選定

当社はお取引先の選定にあたっては、品質、技術、価格、納期、安定供給力、信頼性、経営の安定性およびCSR活動への取組み姿勢を総合的に勘案し、常に適切な品質管理・品質保証が徹底されていることを前提に経済合理性に基づき判断いたします。

5.グリーン調達による地球環境への調和

当社は購買取引にあたっては、資源保護、環境保全に十分配慮いたします。

6.CSR（Corporate Social Responsibility 企業の社会的責任）調達の推進

当社は事業活動に関わるお取引先を含めたサプライチェーン全体でCSRに取り組む、CSR調達を推進します。

そのなかで、品質不適切行為の防止についても取り組んでまいります。

お取引先の皆様へ：CSR調達ガイドライン（Corporate Social Responsibility 企業の社会的責任）

当社は、CSRの定義を「ステークホルダーの満足度を高め、企業価値を向上させること」とし、会社の存続基盤にかかわる環境保全、安全、防災、コンプライアンスなどを最優先に取り組む課題として位置付けています。

当社ではビジネスパートナーであるお取引先の皆様と社会的責任意識を共有し、CSRに関する取り組みをサプライチェーン全体で推進して行きたいと考えております。

お取引先の皆様におかれましても、以下の項目についてご理解頂き、積極的に推進していただきますようご協力をよろしくお願いいたします。

(1) CSR推進のための体制の構築

コンプライアンスの徹底と企業倫理の醸成を図り、CSRに関して社内への周知徹底と実効あるCSR推進体制の整備をお願いいたします。

(2) コンプライアンスおよび情報管理

以下の各項目について、ご対応くださいますようお願いいたします。

- ① お取引先の皆様が事業活動を行っている国・地域の法令・社会規範の遵守
- ② 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体との一切の関係の遮断
- ③ 責任ある鉱物調達に関わる法令等の遵守および紛争鉱物の使用回避
- ④ 取引きを通じて得た機密情報を適切に管理・保護する仕組みの構築と運用

(3) 人権・労働安全衛生への配慮

お取引先の皆様の事業活動において、基本的な人権を尊重し（一切の児童労働・強制労働・人身売買・非人道的行為の排除を含む）、また、あらゆる差別を排除するとともに、安全で健康に配慮した快適な職場環境の実現に努めるようお願いいたします。

(4) グリーン調達による地球環境への配慮

資源保護、環境保全に十分配慮し、環境と調和した事業活動を継続的に推進して頂きますようお願いいたします。

また、各種規制、法則に則り、製品、梱包材料などに関し化学物質の管理徹底をお願いいたします。

(5) 安全で競争力ある製品・サービスの提供

製品・サービスの提供にあたっては、常に安全性の確保と、競争力ある品質・価格・納期での安定供給をお願いいたします。

(6) 品質不適切行為の防止

製品品質にかかわる検査結果の改ざん、捏造および契約違反等の不適切行為について発生防止の取り組みの推進をお願いいたします。

また、当社の製品の品質に変化を及ぼす恐れのある各種変更等を行う場合は事前に当社に通知し、常に適切な品質管理・品質保証が徹底されるようお願いいたします。

(7) コンプライアンス違反発生時

万が一お取引先の皆様の事業活動においてコンプライアンス違反が発生した場合は、当社に速やかに申告してください。原因調査結果および再発防止対策につきましても報告をお願いいたします。

JFEプラリソースは、長期的な視点に立ち持続可能な社会を構成していく一員として価値ある事業活動を継続することで社会的責任（CSR）を実践します。

SDGsへの取り組み

当社は、2018年よりSDGs（持続可能な開発目標）に対応する取り組みを進めています。JFEグループが特定したCSR重要課題を主軸とし、経営・環境・安全・人権・ガバナンスにおいてJFEプラリソースの主な具体的実行テーマを設定しています。

17のSDGs目標と169の対象とするターゲットを照らし合わせ、対象とするターゲットを定め事業活動を行っています。

当社の目指すべきゴールに向けて、本取り組みを継続し発展させて参ります。詳細及び本報告書対応ページ早見表は、巻尾に掲載しています。



事業紹介

容器包装プラスチックのリサイクル

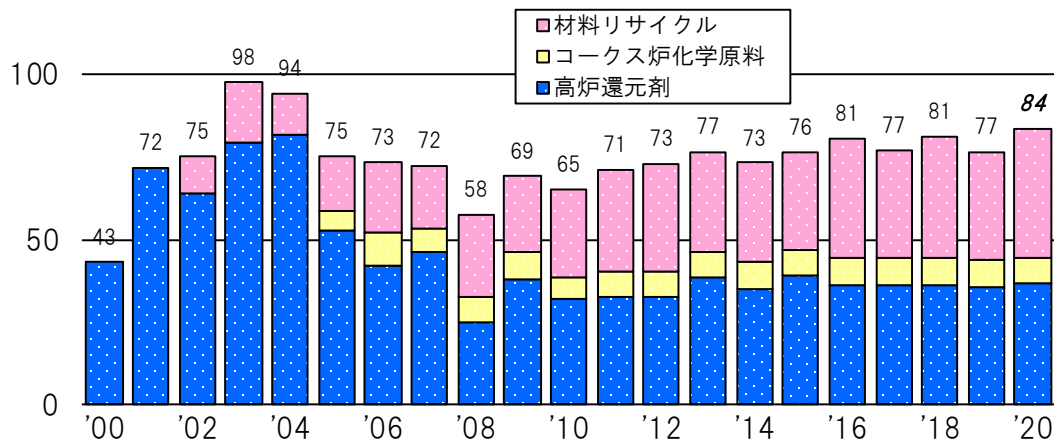
リサイクルの手法

当社は、「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律（容器包装リサイクル法）」に基づき事業を行っています。一般家庭から排出される容器包装プラスチックのリサイクルには、5つの手法が定められており、当社は2000年4月の法施行と同時にリサイクルを開始し、現在「高炉還元剤」、「コークス炉化学原料」、「材料リサイクル」の3手法を行っています。

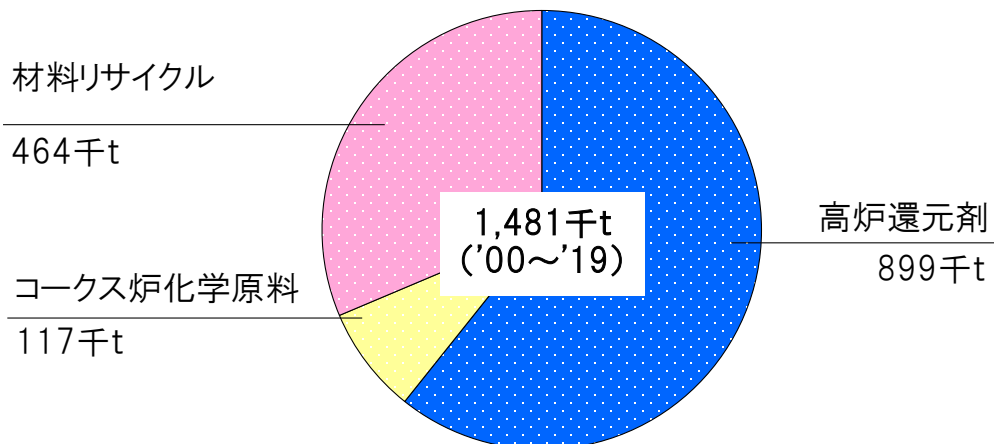
容器包装プラスチックリサイクル量の推移

2000年度の事業開始以降2019年度まで、トータル1,481千tの容器包装プラスチックをリサイクルしてきました。これは、全国総量の約13%を占めています。

▶年間リサイクル量



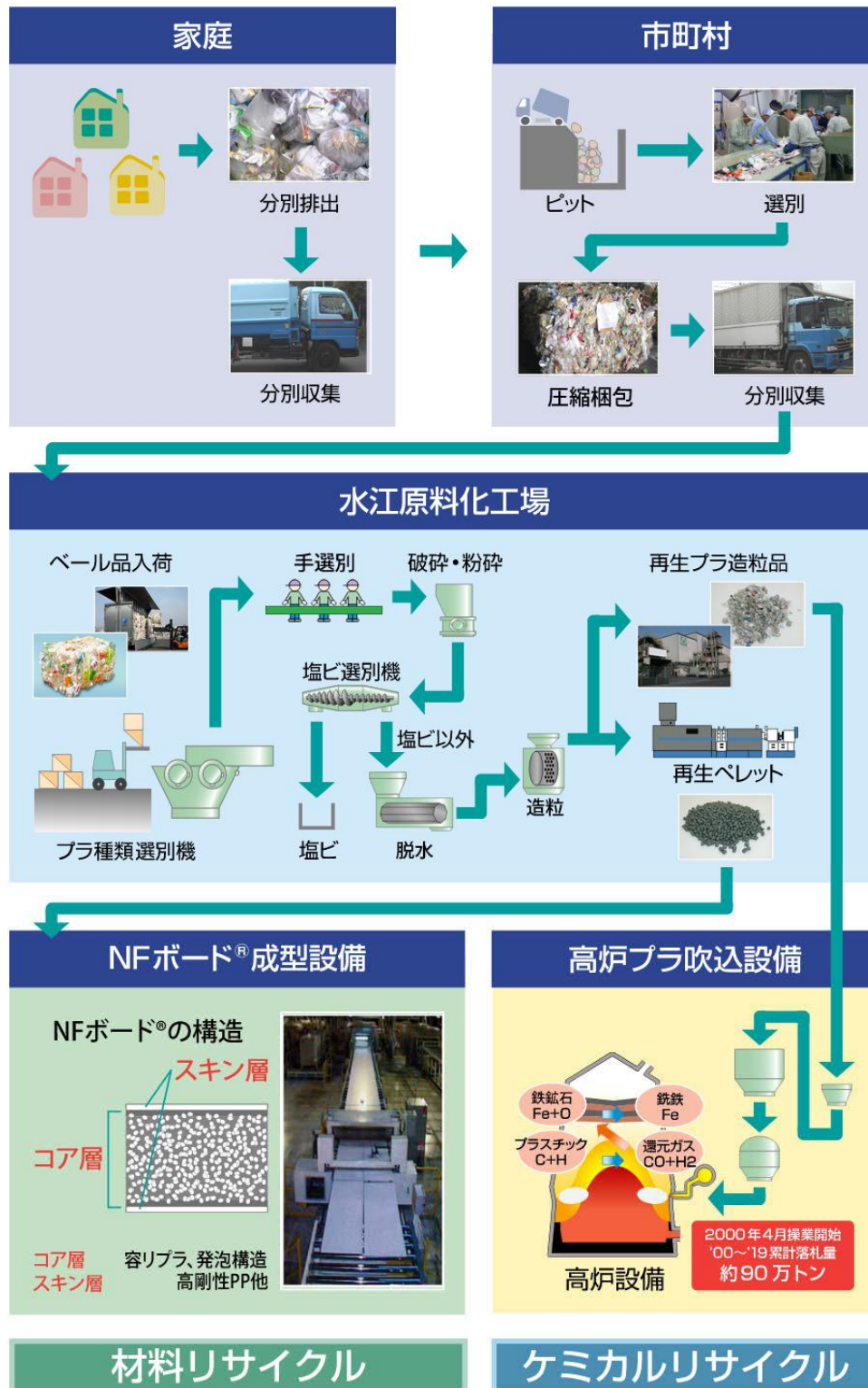
▶リサイクル量の内訳



環境と調和した製品・サービス

使用済プラスチックリサイクルシステムを通じて

家庭から分別排出され、各自治体で収集された容器包装プラスチックは材料リサイクル（ペレット・NFボード®）やケミカルリサイクル（製鉄所高炉用）として再利用されています。



N F ボード®利用用途の拡大

N F ボード®の優れた特性を生かしたご利用用途は拡大中です。

N F ボード®は白くて明るく腐らない特性に加え、以下のような特長があります。

- 1) 汚れが落ちやすい
- 2) 加工がしやすい
- 3) 耐水性・撥水性に優れ、高圧洗浄に強い
- 4) 耐薬品性に優れている


D I Yから施工まで、みな様が必要とされるあらゆるシーンでお役に立っています。

畜産




農業

水耕栽培




水耕栽培棚板用途



水耕栽培棚板用途

低温倉庫

野菜プラント



軽米植物工場「レタスの学校」
内装用途



軽米植物工場「レタスの学校」
内装用途

バックヤード・倉庫

バックヤード



店舗バックヤード
腰壁用途



店舗バックヤード
腰壁用途

トイレ




牧場内トイレ
内装用途




トイレ
腰壁用途

壁面緑化


壁面緑化




壁面緑化下地用途



壁面緑化下地用途




壁面緑化下地用途



壁面緑化下地用途

水産


水産加工場




水産加工場内装用途



水産加工場内装用途




水産加工場冷炭酸化性板用途




水産加工場内装用途


船舶




甲板剥離け用途




甲板剥離け用途



船舶内キッチン棚板用途




船舶内ロッカー扉用途



船底摩耗防止用途

漁協



鮮魚剥き板用途

スポーツ



型枠










看板・その他



NFボード®の認定・認証

当社独自開発のNFボード®は、様々な認定・認証を受けています。
環境にやさしい製品であることに加え、建築資材やD I Y資材として用途の幅広さが評価されています。

<p>1) 海外商標登録</p> <p>商標 : J F E N F - P L A B O A R D</p> <p>所掌 : 中華人民共和国 国家工商行政管理総局 商標局</p> <p>登録番号 : 18100179~18100181</p> <p>認定日 : 2016年9月16日</p> <p>所掌 : 中華民国 經濟部 智慧財産局</p> <p>登録番号 : 01793824</p> <p>認定日 : 2016年11月28日</p>	
<p>2) かながわりサイクル製品認定</p> <p>所掌 : 神奈川県</p> <p>品目 : 業務用資材・D I Y</p> <p>認定製品 : N F ボード</p> <p>認定日 : 2016年11月9日</p>	
<p>3) 商標登録</p> <p>所掌 : 特許庁</p> <p>商標 : N F エコラベル</p> <p>登録番号 : 第5812796号</p> <p>登録日 : 2015年12月11日</p>	
<p>4) 川崎メカニズム認証</p> <p>所掌 : 川崎市</p> <p>製品名称 : N F ボード</p> <p>認証番号 : 25-02</p> <p>認証日 : 2014年1月21日</p>	

<p>5) 建設技術審査証明</p> <p>所掌 : 一般財団法人日本建築センター</p> <p>技術名称 : 再生型枠「NFボード」</p> <p>認定番号 : BCJ-審査証明-210</p> <p>認定期間 : 2013年9月26日~2023年9月25日</p>	
<p>6) 商標登録</p> <p>所掌 : 特許庁</p> <p>商標 : NFボード</p> <p>登録番号 : 第5481636号</p> <p>登録日 : 2012年3月30日</p>	
<p>7) エコマーク</p> <p>所掌 : 公益財団法人日本環境協会</p> <p>商品名 : NFボード</p> <p>認定番号 : 10 118 027</p> <p>認定期間 : 2010年11月25日~2020年8月31日</p> <p>類型名 : No.118「プラスチック製品 Ver.2.4」</p>	
<p>8) NETIS (新技術情報提供システム)</p> <p>所掌 : 国土交通省</p> <p>名称 : NFボード</p> <p>登録番号 : KT-090078</p> <p>登録日 : 2010年3月26日</p>	
<p>9) 低CO₂川崎パイロットブランド '09</p> <p>所掌 : 川崎市</p> <p>認定製品 : 再生プラスチックコンクリート型枠「NFボード」</p> <p>認定日 : 2010年2月</p>	 
<p>10) グリーン購入</p> <p>所掌 : 環境省</p> <p>分類 : コンクリート用型枠</p> <p>名称 : NFボード</p> <p>施工日 : 2008年3月10日</p>	

JFEプラリソースのCSR重要課題

JFEグループのCSR重要課題（マテリアリティ）

JFEグループは、5分野・13項目のCSR重要課題を特定しています。

● 特定したCSR重要課題

特定したJFEグループのCSR重要課題は、以下の5分野・13項目です。
 当社グループは、あらゆる事業活動および社会活動において基本となる人権を尊重しながら、公正かつ透明性の高いコーポレートガバナンスを基盤として、これらのCSR重要課題の取り組みを推進していきます。CSR重要課題への取り組みは、「世界最高の技術をもって社会に貢献します。」という企業理念の実践であり、これらを通じてグループの持続的な成長と持続可能な社会の実現への貢献を目指します。

企業理念 常に世界最高の技術をもって社会に貢献します。

課題の分野	内容	CSR重要課題	
事業活動	良質な商品の提供と お客様満足度の向上	● 優れた技術に基づいた商品とサービスの提供	商品安定供給
		● 安全で高品質な商品の安定供給を継続	品質確保
		● お客様の課題の解決	研究開発の推進
			お客様ニーズへの対応
	地球環境保全	● 環境負荷低減	環境配慮商品の開発と提供
		● 循環型社会の実現に貢献	地球温暖化防止
		● グループの技術力を活かし環境保全に貢献する商品を開発	大気環境の保全
			資源循環の推進
	労働安全衛生の確保	● 安全はすべてに優先する	労働災害の防止
		● 社員とその家族のこころからの健康の維持と、働きがいのある職場を構築	社員とその家族の健康確保
	多様な人材の確保と育成	● 全ての人材がその能力を最大限発揮できる環境を整備	ダイバーシティ&インクルージョン
		● 技術・技能の蓄積と伝承	人材育成制度
事業活動の基本	コンプライアンスの徹底	企業倫理の徹底と法令遵守	

コーポレートガバナンス (公正性・公平性・透明性を確保)

人権の尊重・人権意識

事業活動を通じた「持続可能な開発目標 (SDGs)」への貢献

2015年9月に国連サミットで、持続可能な発展のために世界が共有して取り組む17のゴール「持続可能な開発目標 (SDGs)」が設定されました。グローバル社会の要請に対し、JFEグループは事業活動を通じた貢献を目指します。



関連性の高いSDGs						
7 エネルギーもみんなにそしてクリーンに	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	17 パートナーシップで目標を達成しよう
6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーもみんなにそしてクリーンに	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	
		3 すべての人に健康と福祉を	8 働きがいも経済成長も			
4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう		
		10 人や国の不平等をなくそう	16 平和と公正をすべての人に			

JFEグループの持続的な成長と企業価値の向上

課題への取り組みが目指すもの

持続可能な社会の実現に貢献

JFEプラリソースのCSR重要課題

当社は、JFEグループが特定したCSR重要課題を主軸とし、具体的実行テーマを設定しています。17のSDGs目標と、169の対象とするターゲットを照らし合わせ、対象とするターゲットを定め、取り組みを進めています。

JFEグループ 特定したCSR重要課題			当社の主な具体的実行テーマ	
事業活動	良質な商品の提供と お客様満足度の向上	商品安定供給	適正なバリューチェーン 小売り店網整備	
		品質確保	ISO 9001、ISO 18263 に基づく管理体制	
		研究開発の推進	商品開発体制の拡充 研究開発費利益比率2%	
		お客様ニーズへの対応	お客様選択仕様の拡大 エンゲージメント強化	
	地球環境保全	環境配慮商品の開発と提供	再生プラスチック製品の開発と商品化	
		地球温暖化防止	再生プラスチック製品適用市場の拡大	
		大気環境の保全	—	
		資源循環の推進	副産物の製品化開発	
	労働安全衛生 の確保	労働災害の防止	設備・作業の安全化への資本投入 (同一テーマの全工場実行) リスク低減ワースト5活動	
		社員とその家族の健康確保	快適職場の形成 家族参加型レクリエーション	
	多様な人材の 確保と育成	ダイバーシティ & インクルージョン	外国人の雇用 表示・掲示の多国語化	
		人材育成制度	個人別人材育成シートを用いた 社内外教育計画	
	事業活動 の基本	コンプライアンスの 徹底	企業倫理の徹底と法令遵守	多岐にわたるテーマの内部監査 事例教育

SDGs 目標		対象とするターゲット	
7	エネルギーをみんなに そしてクリーンに	7. 2	再生可能エネルギー割合大幅拡大
		7. 3	エネルギー効率改善率倍増
9	産業と技術革新の基盤をつくろう	9. 4	環境配慮技術プロセス導入拡大
10	人や国の不平等をなくそう	—	—
11	住み続けられるまちづくりを	11. 6	都市部環境影響軽減
12	つくる責任つかう責任	12. 1	持続可能な消費と生産プログラム (低炭素型ライフスタイル・社会システム確立)実施
		12. 4	製品ライフサイクルでの環境配慮・健康環境悪影響を最小限
		12. 5	予防・削減・リサイクル・再利用で廃棄物排出大幅削減
		12. 6	持続可能性定期報告
13	気候変動に具体的な対策を	13. 1	気候変動・自然災害弾力性・適応力強化
17	パートナーシップで目標を達成しよう	—	—
6	安全な水とトイレを世界中に	6. 4	水資源利用効率改善
7	エネルギーをみんなに そしてクリーンに	7. 2	再生可能エネルギー割合大幅拡大
		7. 3	エネルギー効率改善率倍増
9	産業と技術革新の基盤をつくろう	9. 4	資源利用効率向上・クリーン技術・環境配慮技術 プロセス導入拡大
12	つくる責任つかう責任	12. 1	持続可能な消費と生産プログラム (低炭素型ライフスタイル・社会システム確立)実施
13	気候変動に具体的な対策を	—	—
14	海の豊かさを守ろう	14. 1	あらゆる海洋汚染防止・減少
3	全ての人に健康と福祉を	3. 6	交通事故半減
		3. a	たばこ規制
		3. d	健康リスク早期警告・緩和・管理能力強化
8	働きがいも 経済成長も	8. 4	経済成長と環境悪化の分断 (資源効率改善)
4	質の高い教育をみんなに	4. 4	男女の区別無く 雇用・ディーセントワーク(働き甲斐・人間らしい仕事)
		4. 5	ジェンダー格差を無くす
5	ジェンダー平等を実現しよう	5. 1	女性差別撤廃
		5. 2	女性への暴力排除
		5. 3	有害慣行撤廃
		5. 4	無報酬育児・介護・家事認識評価
		5. c	ジェンダー平等促進
8	働きがいも 経済成長も	8. 2	高レベル経済生産性
		8. 5	完全かつ生産的雇用・ ディーセントワーク(人間尊厳を保てる生産的な仕事)・ 同一労働同一賃金達成
9	産業と技術革新の基盤をつくろう	—	—
10	人や国の不平等をなくそう	10. 3	機会均等確保・成果不平等是正
10	人や国の不平等をなくそう	10. 3	機会均等確保・成果不平等是正
16	平和と公正をすべての人に	16. 5	汚職・贈賄大幅減少
		16. 10	基本的自由保障

JFEプラリソース SDGs目標とCSR報告書記載項目対比表

当社の主な具体的実行テーマ	SDGs目標	
適正なバリューチェーン 小売り店網整備	7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに
ISO 9001、ISO 18263 に基づく管理体制	9 10 11 12	産業と技術革新の基盤をつくろう 人や国の不平等をなくそう 住み続けられるまちづくりを つくる責任つかう責任
商品開発体制の拡充 研究開発費利益比率2%		
お客様選択仕様の拡大 エンゲージメント強化	13 17	気候変動に具体的な対策を パートナーシップで目標を達成しよう
再生プラスチック製品の開発と商品化		
再生プラスチック製品適用市場の拡大		
—		
副産物の製品化開発	6 7 9 12 13 14	安全な水とトイレを世界中に エネルギーをみんなにそしてクリーンに 産業と技術革新の基盤をつくろう つくる責任つかう責任 気候変動に具体的な対策を 海の豊かさを守ろう
設備・作業の安全化への資本投入 (同一テーマの全工場実行) リスク低減ワースト5活動	3	全ての人に健康と福祉を
快適職場の形成 家族参加型レクリエーション	8	働きがいも経済成長も
外国人の雇用 表示・掲示の多国語化	4 5	質の高い教育をみんなに ジェンダー平等を実現しよう
個人別人材育成シートを用いた 社内外教育計画	8 9 10	働きがいも経済成長も 産業と技術革新の基盤をつくろう 人や国の不平等をなくそう
多岐にわたるテーマの内部監査 事例教育	10 16	人や国の不平等をなくそう 平和と公正をすべての人に

対象とするターゲット		2020 CSR環境報告書項目	頁
7.2	再生可能エネルギー割合大幅拡大	—	
7.3	エネルギー効率改善率倍増	—	
9.4	環境配慮技術プロセス導入拡大	—	
11.6	都市部環境影響軽減	—	
12.1	持続可能な消費と生産プログラム (低炭素型ライフスタイル・社会システム確立)実施	品質環境マネジメントシステム JISQ9091:2016 自己適合宣言	4 43
12.4	製品ライフサイクルでの環境配慮・ 健康環境悪影響を最小限	JISQ9091:2016 自己適合宣言 環境と調和した製品・サービス	43 31
12.5	予防・削減・リサイクル・再利用で廃棄物排出大幅削減	容器包装プラスチックリサイクルのマテリアルフロー	9
12.6	持続可能性定期報告	環境に係るデータ公開	8
13.1	気候変動・自然災害弾力性・適応力強化	—	
	—	—	
6.4	水資源利用効率改善	容器包装プラスチックリサイクルのマテリアルフロー	9
7.2	再生可能エネルギー割合大幅拡大	—	
7.3	エネルギー効率改善率倍増	—	
9.4	資源利用効率向上・クリーン技術・環境配慮技術 プロセス導入拡大	品質環境マネジメントシステム 環境と調和した製品・サービス	4 31
12.1	持続可能な消費と生産プログラム (低炭素型ライフスタイル・社会システム確立)実施	品質環境マネジメントシステム JISQ9091:2016 自己適合宣言	4 43
14.1	あらゆる海洋汚染防止・減少	容器包装プラスチックリサイクルのマテリアルフロー	9
3.6	交通事故半減	—	
3.a	たばこ規制	健康経営への取り組み	23
3.d	健康リスク早期警告・緩和・管理能力強化	健康経営への取り組み	23
8.4	経済成長と環境悪化の分断(資源効率改善)	容器包装プラスチックリサイクルによる環境負荷削減	8
4.4	男女の区別無く 雇用・ディーセント・ワーク (働き甲斐・人間らしい仕事)	ハラスメントのない安心できる毎日のために ダイバーシティの推進	20 24
4.5	ジェンダー格差無くす		
5.1	女性差別撤廃		
5.2	女性への暴力排除		
5.3	有害慣行撤廃		
5.4	無報酬育児・介護・家事認識評価		
5.c	ジェンダー平等促進		
8.2	高レベル経済生産性		
8.5	完全かつ生産的雇用・ ディーセントワーク(人間尊厳を保てる生産的な仕事)・ 同一労働同一賃金達成		
10.3	機会均等確保・成果不平等是正		
10.3	機会均等確保・成果不平等是正	ダイバーシティの推進	24
16.5	汚職・贈賄大幅減少	—	
16.10	基本的自由保障	ハラスメントのない安心できる毎日のために	20

JIS Q 9091:2016 適合宣言書

持続可能な循環型社会を作り上げていくため限られた資源を有効に使うことが求められる昨今、容器包装リサイクル法の枠組みにおいても、環境負荷低減を目指した環境配慮設計が進んでいます。事業者における容器包装の環境配慮設計の促進と、消費者における環境に配慮した商品の選択につながることを目的として、JIS Q 9091:2016に基づく「適合宣言」を行い、品質マネジメントシステム（ISO 9001:2015）の追加指針としています。

適合宣言書

番号 : 0002
発行者の名称 : JFEプラリソース株式会社
発行者の住所 : 本社・京浜事業部 神奈川県川崎市川崎区水江町5番地1
福山事業部 広島県福山市箕沖町113番地
宣言の対象 : プラスチック製容器包装から材料リサイクル手法にて再商品化したプラスチック再生材料（再商品化製品）
適合規格 : 上記宣言の対象は、次の文書の要求事項に適合しています。
JIS Q 9091:2016
品質マネジメントシステムープラスチック再生材料ー
事業プロセスパフォーマンスに関する指針
平成28年10月20日制定

宣言 :
JFEプラリソース株式会社は、プラスチック製容器包装から材料リサイクル手法にて再商品化したプラスチック再生材料（再商品化製品）について、以下を宣言します。

(1) 品質確認

- 1) 出荷する再商品化製品の品質確認を実施します。
- 2) 品質管理基準を定め品質管理を実施し、基準に合格したもののみを製品とします。
- 3) 製品品質の推移を監視します。

(2) 品質の安定性

- 1) 製品のサンプルを品質管理基準に基づき保管します。
- 2) 機器の運転状況を適切に監視します。
- 3) 機器の点検・保守を適切に行います。

- 4) 落札した各保管施設からのペール内容（異物、汚れ等）を把握し、再商品化したプラスチック再生材料（再商品化製品）の品質安定化を図ります。
- 5) 規格外品の混入を防ぎます。
- (3) 保管管理
 - 1) 原料及び製品を、保管管理基準に基づき適正に保管します。
 - 2) 原料は、飛散や増湿を防ぐ処置を行います。
 - 3) 原料及び製品の在庫、保管状況を管理します。
- (4) トレーサビリティ管理
 - 1) 原料の受入日、市町村、数量を記録します。
 - 2) 製造におけるマテリアルバランスを管理します。
- (5) 禁止物質管理
 - 1) 特定顧客向けに製品販売を行う場合には、二者間で取り交わした納品仕様書等に規定した要求事項を遵守します。
- (6) 安定供給
 - 1) 安定供給に努めます。
- (7) 測定機器の校正頻度
 - 1) 社内測定器は、管理基準を定め、校正を含めて管理します。
- (8) 再商品化製品製造量当たりの二酸化炭素排出量
 - 1) 再商品化における二酸化炭素排出量を管理します。
- (9) 再商品化製品製造量当たり水消費量
 - 1) 再商品化における水資源使用量を管理します。
- (10) コンプライアンス
 - 1) 公益財団法人日本容器包装リサイクル協会の定めた「プラスチック製容器包装再生処理ガイドライン」を遵守します。
 - 2) 法令に基づき必要な許認可を取得し、適用される法令を遵守します。
 - 3) 情報セキュリティ管理体制を構築しています。
- (11) 保険
 - 1) 建物、設備、その他資産に関する火災保険などに加入しております。
 - 2) 従業員の損害賠償責任保険に加入しております。

代表者の署名 : 田村 望

発行日 : 2017年12月1日（改定日：2018年6月12日）

発行場所 : 神奈川県川崎市川崎区水江町5番地1



JFE プラリソース 株式会社

本社・京浜事業部

〒210-0866 神奈川県川崎市川崎区水江町5番地1
TEL 044-299-5193 FAX 044-299-5328

福山事業部

〒721-0956 広島県福山市箕沖町1-1-3番地
TEL 084-981-3160 FAX 084-981-3170

<http://www.jfe-plr.co.jp>